

春日大社 回廊内 五感ポイント MAP

奈良女子大学： 大谷咲月 中飯久美子 金村麗華

体験型観光を取り入れた

誰もが楽しめる観光まちづくり

<観光の楽しみ方を調べる>

① ヒアリング調査、アンケート調査

目的： 視覚・聴覚障害者が抱える観光の問題点と観光をする際に用いる感覚と視点を明らかにする

対象： 視覚・聴覚障害者



② 観察調査

目的： ①で明らかになった観光の際に用いる感覚と視点を利用する具体的な観光地の空間的特徴と満足度を把握する。

対象： 視覚・聴覚障害者

方法： 実際の観光に付き添い、観察する。



<背景>

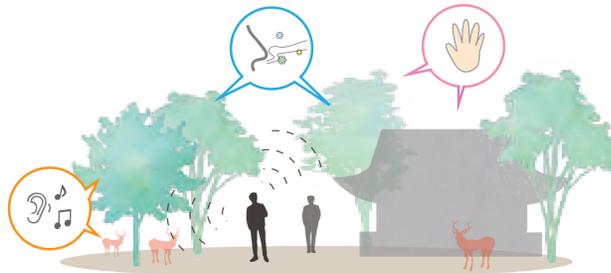
平成18年に施行された「バリアフリー法」により高齢者や障害者等が円滑に生活できる整備は整いつつあるが、実際には肢体不自由者を対象とするものが多く、視覚・聴覚障害者に対する整備は少ない。これは観光地である奈良市も例外ではなく、より多くの人に楽しんでもらうために整備を進める必要がある。

<活動の目的>

視覚・聴覚障害者の観光の楽しみ方を明らかにし、体験型観光の内容とそのための情報提示方法を検討する。また、彼らの行う観光方法を取り入れたマップを製作し、多くの人を楽しめる奈良の観光まちづくりを提案する。

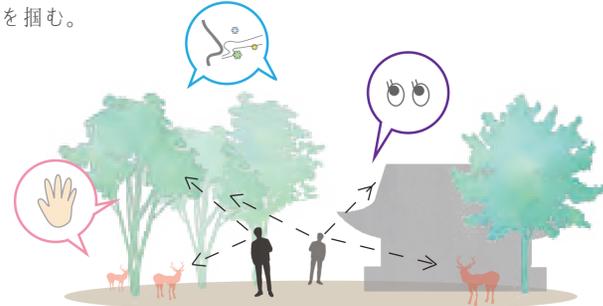
<視覚障害者の観光の楽しみ方>

介助者との会話の他に触覚（手で触る、足で踏む）、聴覚（会話、反響音）、空気感（温度、風）などから情報を得て空間を想像する。



<聴覚障害者の観光の楽しみ方>

視覚や聴覚、空気感など複数の感覚を用いて体験し、空間の関係を掴む。



<体験型情報提示による観光MAP>

視覚・聴覚障害者の観光の「楽しみ方」の共通点をマップ内に落とし込み、視覚・聴覚障害者をはじめ、誰もが身体感覚を用いて楽しめる観光マップを製作する。

～MAPの工夫～

- ① 身体的感覚で楽しめる地点を提示する。
→ その場で体験できる情報と新しく知れる情報を組み合わせ、場所の理解を深める。
- ② 視覚的かつ簡略的に情報を提供する。
→ 文字を極力減らし、イラストやピクトグラム図を増やす。

<報告のまとめ>

視覚・聴覚障害者は障害を補うために身体的感覚（触覚、聴覚等）を研ぎ澄ました観光を行う。これらの身体的感覚を用いる観光用の情報発信ツールは少ない。本報告で製作した体験型観光マップは、視覚・聴覚障害者の観光の充実化を図ると同時に、誰もが触れる、におう等の身体的感覚を

用いる新たな観光の楽しみ方の発見になり、体験型観光を楽しむツールとなる。若者、子ども、高齢者、障害者、それぞれの視点で町の魅力を発掘・共有することが、誰もが楽しめる観光まちづくりにつながる。



みて発見 感じて実感
歴史を肌に感じる

本社回廊内 五感ポイント MAP



ふれてみて



じっくりみて

重要文化財



みみをすませて



におってみて

御神木

ふじなみのや 藤浪之屋

夜の大神を体験！
暗い空間で燈籠の明かりを楽しむ
● 豆知識
大社内には3000基の燈籠がある

ねじろう 捻廊

柱の形に注目！触って実感！
柱が斜めでゆがんだ階段



しゃとうのおおすぎ 社頭の大杉

大きさが圧巻！ご神木
樹齢800年～1000年
周囲8.7メートル、高さ25メートル！
風が吹くと擦れた音
サワサワ、カサカサ

びやくしん 柏楨

見て驚き！神様が宿る木の成長に
建物をあわせ、木が屋根を突き抜ける



すなずりのふじ 砂ずりの藤

名前の由来は、砂に触れるほどの長さ
樹齢700年以上

えのもとしんじや 榎本神社

耳の聞こえにくい神様なので、神社の
柱をたたいてからお参りする

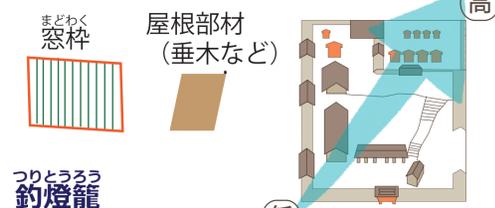


ごほんでん 御本殿

屋根の形に注目！曲線を描く
御本殿に参拝する地面の高さは
興福寺の五重塔と同じ高さと言われる

かいろろ 回廊

歩いて実感！山の斜面にそって建物が建つ
回廊も土地にあわせて斜めになっている



つりとろうろ 釣燈籠

灯籠に注目！
奉納する人が決めるデザインはさまざま
江戸時代～最近のものまで 歴史を実感
● 豆知識 灯籠の新旧の見分け方
灯籠はもともとは金色
→時間とともに色が変化

へいでん・ぶでん 幣殿・舞殿

建物天井に注目！
子組格天井
格天井の中にさらに細かい格子がある天井
林檎の庭では、毎月1,11,12日の旬祭で
神楽の奉納（朝10:30頃～11:00頃）

なんもん 南門

高さ12m 鮮やかな朱色
春日大社最大の門
柱の大きさ 人の腕一周位